

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

2024年8月23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 藤 洋作 様

所属部局・研究科 理学研究科

職名・学年 博士後期課程3年

氏名 福山 亮部

助成の種類	令和6年度 ・ 国際研究集会発表助成			
研究集会名	第8回果実食・種子散布シンポジウム			
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(
発表題目	マダガスカル乾燥林における3種のトカゲの果実食			
開催場所	ブラジル・イリュウス			
渡航期間	2024年8月2日 ～ 2024年8月18日			
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()			
会計報告	交付を受けた助成金額	350,000円		
	使用した助成金額	350,000円		
	返納すべき助成金額	0円		
	助成金の使途内訳	費目	金額(円)	
		航空運賃	374,592	
		宿泊費		
		滞在費		
学会参加費				
その他				
	以上に助成金を充当			
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回助成金をいただけたことで、世界中の種子散布研究者と充実した交流をすることができ、非常に良い経験となりました。誠にありがとうございました。			

成果の概要 / 福山 亮部

果実食・種子散布シンポジウム (Frugivores and Seed Dispersal Symposium) は、果実食と種子散布に関わる研究者が一堂に会する国際学会で、4~5年に一度開催されています。果実食・種子散布は生態学の中では比較的よく取り上げられるテーマではあるものの、研究の中心は南北アメリカとヨーロッパであり、国内の研究者はあまり多くありません。海外の研究者との交流および、近年の本分野の動向を学ぶため、ブラジルで行われた本学会に参加いたしました。

学会は5日間に渡って行われ、ポスター発表と2会場での口頭発表が実施されました。参加者はブラジルの研究者や学生を中心に200名ほどが集まり、果実食・種子散布に関する様々な議論が行われました。口頭発表の時間は15分でしたが、1日の初めと終わりにはそれぞれ45分の招待講演も実施され、著名な研究者による研究の数々をより深く知ることができました。ブラジルで行われた学会ということもあり、発表の多くは南米をフィールドとしていました。地道なフィールド調査で得られたデータを用いた生態学的な研究から、果実の成分を分析した生化学的な研究、さらには過去の膨大な論文のデータを集約したメタアナリシスなど、発表内容も多岐にわたっていました。また、1日数回あるコーヒープレイクや食事の時間には、研究室や国籍の垣根を超えた研究者同士のディスカッションが行われ、貴重な交流の場となっていました。

私の発表タイトルは「マダガスカル乾燥林における3種のトカゲの果実食」というものです。本研究では、マダガスカルで実施したフィールド調査の成果をまとめ、当地においてトカゲ類が種子散布者として重要な役割を持ちうるという内容を発表いたしました。マダガスカルではこれまで哺乳類と鳥類のみが主要な種子散布者だと考えられてきたため、本研究はその議論に一石を投じる内容になります。初めての国際学会での発表に不安も感じておりましたが、おおむね良い反応を得られたと感じております。発表後にも多くの研究者と交流し、議論を深めることができました。特に普段論文を読んだり、引用したりしている研究者と直接顔を合わせて交流できたのは、今後の研究者人生につながる良い経験になりました。

学会の終了後には、エクスカージョンや現地の研究者の調査地見学等を行い、ブラジルの大西洋岸森林における果実食や種子散布に関して、実地的な学びを得ることもできました。日本やマダガスカルといった普段研究している環境との違いに加え、実際に果実を捕食する鳥類や、多様な果実、種子などを見ることができ、良い経験になりました。特に学会期間中に南米ではヤシの果実が重要な栄養源になっているという発表を多く目にしたため、実際の果実やその捕食者である鳥類などを見ることができ、発表内容のより深い理解にも繋がったと感じております。

トカゲは果実食者としてマイナーな分類群のため、私のようにトカゲのみを対象とした発表は他にありませんでした。そういった事情もあり、研究内容を受け入れてもらえるか

についての不安もありましたが、蓋を開けてみれば多くの研究者と交流することができました。また、主題としてトカゲを扱っている研究はなかったものの、研究内容の一部にトカゲを含んでいる発表は少なからずあり、必ずしもトカゲへの注目度が低いわけではないのだと感じました。本学会では5日間にわたって様々な発表を目にしました。果実食や種子散布に関して様々なアプローチによる研究が行われており、自身の視野が広がるとともに、今後の研究を進めていく上での新しいアイデアにもつながったと感じております。

本学会の参加にあたっては、高額な航空券代が必要となりました。その捻出にあたり、公益財団法人京都大学教育研究振興財団からいただいた本助成金は、非常に大きな助けとなりました。貴重な研究発表の機会を提供してくださった貴財団に感謝の意を表したいと思います。